第70回日本公衆衛生学会

遺伝子組み換え食品に対する消費者の意識調査

守田貴子[1, 2]、濱田美来[3]、尾花尚弥[3]、水野静枝[4]、御輿久美子[2]、今村知明[2]

1)広島大学　医歯薬学総合研究科公衆衛生学研究室
2)奈良県立医科大学　健康政策医学
3)三菱総合研究所
4)奈良県立医科大学　老年看護学領域

1

背景

我が国において、安全安心な食品提供を行う上で、遺伝子組換え作物・食品（以下、GMO・GM食品）に関する適切なリスクコミュニケーションに取り組むことは必要不可欠である。

目的

消費者のGMO 及びGM食品に対する意識や受容性の現状を把握し、消費者の支払意思額（以下、WTP）との関係について検討したので報告する。

2

研究方法

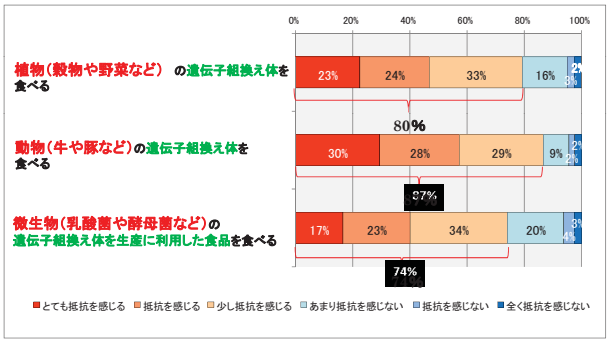
- 方法：インターネットによるアンケート調査
- 調査期間：2010年2月20～22日の3日間
- 対象者：性別年齢階層別の10セグメントに均等割り付けした20歳以上の男女モニター
- 調査項目：①GM食品に対する抵抗感
  ②GM食品に対するWTP（支払い意思額）
- 発送件数：3662件

結果

- 回答者数：1030件　　回収率：28.1%

3

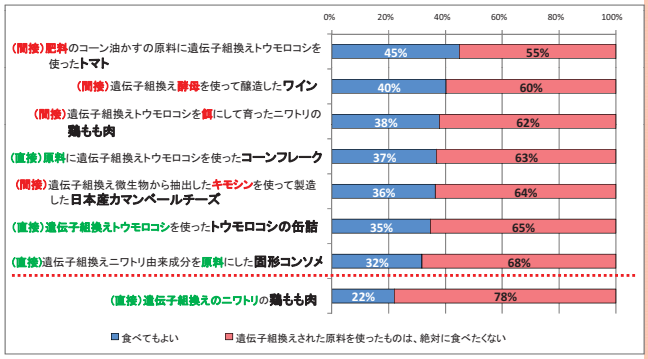
GM技術から生まれた食べ物に対する抵抗感



遺伝子組換え技術から生まれた食べ物に対する抵抗感は74～87%だった

4

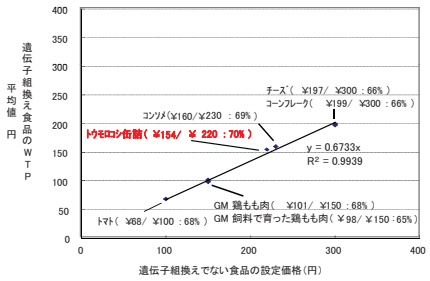
GM食品を食べることに対する考え



購入価格が安い場合、食べてもよいという回答者は22～45%であった。しかし、食品別にその割合は異なり、鶏もも肉と他の食品では購入意向に有意差がみられた。

5

食品別支払意思額（WTP）



遺伝子組換えされた原料を使っているかどうか分からない場合でも、「安ければ食べてもよい」という回答者のGM食品とNon-GM食品のWTPは、食品ごとに差はなく、いずれもGM食品が約30%低かった。

6

GM食品に対する消費者のWTPと市場の取引価格

	GM食品に対するWTP（平均価格）（単位：円）	Non-GM食品の設定価格（単位：円）	GM食品を購入してもよいと感じる割引率
GMトウモロコシを使ったトウモロコシの缶詰	154	220	30%
原料にGMトウモロコシを使ったコーンフレーク	199	300	34%
肥料のコーン油かすの原料にGMトウモロコシを使ったトマト	68	100	32%
GMニワトリの鶏もも肉	101	150	32%
GMトウモロコシを餌にして育ったニワトリの鶏もも肉	98	150	35%
GMニワトリ由来成分を原料にした固形コンソメ	160	230	31%
GM微生物から抽出したキモシンを使って製造した日本産カマンベールチーズ	197	300	34%

「食べてもよい」という回答者の、非組換え食品に対する各遺伝子組換え食品の希望割引率は約30%であり、食品による違いは見られなかった

7

GM食品に対する市場での割引率

東京穀物商品取引所における2011年02月限先物価格（2010年2月末現在）	一般大豆	非遺伝子組換え大豆	遺伝子組み換え作物混入に対する割引率
大豆価格	39,180	46,900	16%

市場での割引率は16%と低かった。

8

結論

＊GM食品に対する抵抗感は、約7割の人が持っている

＊GM食品を「安ければ食べてもよい」という回答者でも、GM食品によってその割合は異なる

＊GMに対する消費者の割引希望率と実際の購入価格である市場の割引率では、約15%の開きがあったことから、市場と消費者の意識に違いがあった

ご静聴ありがとうございました